

東京都スポーツ振興審議会（第25期）による今後のスポーツ振興の方向性に係る意見について

都が社会情勢の変化を的確に捉え、時機を逸せず効果的な施策を展開していく上でも、引き続き審議会との連携を図っていくとともに、以下の事項を視野に入れながら更なるスポーツ振興について検討されたい。

1 障害の有無に関わらないスポーツ振興

障害のある人もない人も互いに尊重し支えあう共生社会の実現に向け、スポーツを通じて心のバリアフリーを達成させる視点が重要

【具体的意見】

- 健常者向け・障害者向けでスポーツを考えるのではなく、当初から障害者スポーツをも想定してユニバーサルに取り組むべき
- 障害者と健常者が一緒に楽しめるニュースポーツやレクリエーションを推進していくべき

2 学校や企業等の多様な主体との連携強化

働き盛り世代のスポーツ実施率向上に向け、一日の大半を過ごしている職場での取組や幼少期からスポーツを習慣づける取組が重要

【具体的意見】

- ワーク・ライフ・バランスや健康経営の重要性が認識されつつあることを踏まえ、東京都から企業に積極的に働きかけを行うべき
- 幼少期のスポーツ嫌いをなくすためにも、未就学期、小・中学校期からスポーツを楽しいものだと思えるような取組をしていくべき

3 超高齢社会への対応

超高齢社会においてスポーツが果たす役割を明らかにし、スポーツの力により、いつまでも都民が生き生きと活躍する社会を形成させる視点が重要

【具体的意見】

- 都民が老後を健康に過ごし、ひいては医療費や介護給付費の抑制に繋げていくためにも、スポーツが健康に及ぼす効果を明示していくべき
- 都民が健康になるために必要な運動量や日常的に行える運動を提示していくべき

4 スポーツを通じた地域・経済の発展

スポーツをビジネスとして捉え、スポーツ資源を効果的に活用することを通じ、地域や経済の発展に寄与させていくことが重要

【具体的意見】

- スポーツを発展させていくためには、スポーツで収益をあげ、スポーツに還元していくという循環を構築することが必要
- 観るスポーツを推進していくためには、スポーツのエンターテインメント性を高めていくことが必要